# しまねリハビリテーションネットワーク10周年記念

# メッセージ集

しまねリハビリテーションネットワーク
SHIMANE REHABILITATION NETWORK

令和8年11月22日




# その人らしく生きる地域を支える10年の歩みを祝して
# ～「最後まで口から食べる」を支える連携の深化に寄せて～

しまねリハビリテーションネットワーク10周年、誠におめでとうございます。貴会のミッション・スローガンである「その人らしく“生きる・活きる”地域を目指して、『共に学ぶ』『共に動く』『共に育て・支える』」という理念は、地域で暮らす方々の尊厳を守り、その生活を支えるうえで欠かすことのできない視点であり、現代の地域包括ケアの方向性を的確に示すものと深く感じております。これまで多職種が互いの専門性を尊重しながら協力し、地域の支援体制を着実に育んでこられた貴会の取り組みは、県内の保健・医療・福祉の場において確かな意義をもって積み重ねられてきました。

島根県栄養士会では、「最後まで口から食べる」を支援の柱として掲げ、栄養・食支援の専門性を生かした活動を進めております。しかしながら、支援の現場においては、「食べる」ことを支える難しさが年々増していることを痛感しております。

社会構造の変化に伴い、食べるために必要な条件は一層複雑化し、口腔や身体の健康のみならず、心情、生活習慣、生活背景など、多岐にわたる要因が密接に関わります。個々の状況を的確に把握し、その人にふさわしい支援を行うことは容易ではなく、一職種のみで完結できるものではありません。そのため、多職種・行政・地域が連携し、持続可能な支援体制を築くことが不可欠であると考えております。人生100年時代を迎えた現代において、

最後までその人らしく生きる」を支えるために、貴会との協働は、その基盤をより確かなものにする重要な取り組みであると存じます。今後さらに連携を深め、地域の健康課題に共に向き合ってまいりたいと願っております。

島根県栄養士会としても、専門職として研鑽を重ね、共に学び、共に育ち、地域の皆様の健やかな暮らしの実現に寄与すべく尽力してまいる所存です。結びに、貴会のさらなるご発展と、地域住民の安寧と健康の増進を心より祈念申し上げます。



公益社団法人　島根県栄養士会
会長　名和田　清子




# しまねリハビリテーションネットワーク10周年に寄せて

しまねリハビリテーションネットワークが創立10周年を迎えられますことに、心からお祝い申し上げます。

島根県薬剤師会は、令和5年に貴団体が、地域住民や関係団体、行政との活動をさらに発展させることを目的に現在の「しまねリハビリテーションネットワーク」に名称を変更され、活動を拡大されたのを機に、協力団体として参加させていただきました。

ご招待いただいた研修会の熱量の高さに圧倒されたのを、今でも鮮明に記憶しております。その後もさらに熱量を上げ活動されているは、関係者の皆様のたゆまぬご努力の賜物だと感服致します。

薬剤師のリハビリテーションおける役割については、日本リハビリテーション栄養学会からリハビリテーション栄養における薬剤師の役割に関するポジションペーパーが公開され、リハビリテーションの場で職能を発揮できる可能性が示唆されています。

今日では薬物療法も生活の一部と考えられ、さらにこれからは、リハビリテーションや生活を意識した薬物療法が求められています。また、リハビリテーション施行中の方は多くの薬剤を服用しており、薬剤の影響で低栄養やリハビリテーションの効率の低下に陥っていることも考えられます。そういった状況に薬剤師は、リハビリテーションに関わる多職種と連携し、さらに協力していかなければなりません。

必要とされる場で薬剤師が職能を発揮するために、引き続きまして貴団体のお力添えをたまわりますようお願い申し上げます。

結びに、創立10周年の契機といたします、しまねリハビリテーションネットワークのさらなるご発展と、会員の皆様方のますますのご活躍を心からお祈り申しあげます。

一般社団法人　島根県薬剤師会
常任理事　小椋　邦夫

# しまねリハビリテーションネットワーク10周年を記念して

しまねリハビリテーションネットワーク10周年、誠におめでとうございます。これまで、島根県の地域リハビリテーションの発展と、地域づくりにご尽力されてきた皆様に、心より敬意を表します。

超高齢社会が進展し、医療・介護・福祉を取り巻く環境が大きく変化する中、生活そのものを支え、社会参加を促していくリハビリテーションの役割は、ますます重要になっています。特に島根県では、医療資源や人材が限られる中、地域の実情に応じて、多職種が互いの専門性を生かしながら力を合わせることが不可欠です。

医師をはじめ、歯科医師、薬剤師、看護職、リハビリテーション専門職、介護・福祉関係者、行政、そして地域住民が顔の見える関係を築き、それぞれの知恵と力を結集することが、県民の暮らしを守る大きな力となります。

島根県医師会としても、医療とリハビリテーションの連携をさらに深め、地域での暮らしの支援につなげていくことが重要と考えています。これからも、しまねリハビリテーションネットワークの皆様と地域の課題に向き合いながら、誰もが安心して自分らしく暮らし続けることのできる地域社会を共に築いてまいりたいと思います。

10周年を一つの節目として、これまでの歩みに感謝を申し上げるとともに、今後ますますのご発展と、関係者の皆様のご健勝を心より祈念いたします。

一般社団法人　島根県医師会
会長　森本　紀彦

# しまねリハビリテーションネットワーク10周年に寄せて

しまねリハビリテーションネットワークが10周年を迎えられますこと、お喜び申し上げます。

ネットワークの構成団体（3士会）におかれましては、各団体が持つ機能を活かし（基本的動作能力の回復・社会的適応能力の回復・音声及び言語機能や聴覚障害のある方への機能向上等々）、子どもから高齢者までその人らしく生き生きと暮らせる支援を行われており、深く敬意を表します。

貴会のミッションである「その人らしく生きる・活きる地域をめざす」は、当会の理念・目標と一致している部分もあり、令和5年の要請に応えて協力団体として参加をいたしました。

しまねリハビリテーションネットワークに協力団体として参加したことにより、リハビリ専門職の方と顔の見える関係となり、在宅保健師等の資質向上研修をはじめ、各地区の介護予防活動においても助言・指導を賜り、私たちの活動に幅と深まりが出てまいりました。

ネットワーク会議での専門職能団体との連携体制は、各団体が抱える課題を共有することにより、誰一人取り残さない包括的な地域支援体制づくりの基盤になると考えています。

予防・医療・介護を通じた切れ目のないリハビリテーションの推進が求められる中で、しまねリハビリテーションネットワークは、各分野（領域）における専門職（機関）が連携し、地域の課題解決に取り組むことで、健康長寿を目指した社会づくりに貢献できると思います。

在宅保健師等の会「ぼたんの会」の活動は、地域に生活する住民の心と体の健康づくりを支援し、健康なまちづくり活動に寄与することを目的に活動を展開しています。

今後も、しまねリハビリテーションネットワークの構成団体の皆様と連携し、地域に根ざした保健活動を継続し地域づくりの一翼を担っていきたいと思います。

島根県在宅保健師等の会　「ぼたんの会」
会長　永江尚美

# しまねリハビリテーションネットワーク10周年に寄せて

しまねリハビリテーションネットワーク設立10周年、誠におめでとうございます。

島根県歯科衛生士会も協力団体として参画させていただき、毎年の会議や研修会などを通して、皆様とご一緒する機会をいただいています。

会議等に参加しますと、まずは皆様の熱意と行動力にエネルギーを感じずにはいられません。さまざまな職種の方が、それぞれの立場から率直に意見を出し合い、より良い活動につなげようとする姿に、時には圧倒されながらも、いつも大きな刺激をいただいています。そして何より、そこに集まる皆様の生き生きとした雰囲気に、私自身も元気をもらっています。

また、今の活動だけでなく、若い世代を育て、次へつないでいこうとする取り組みにも感銘を受けています。

次の世代が関わり、育っていくことが、組織や活動を続けていく力になることを改めて感じ、私たち歯科衛生士会にとっても学ぶことが多くあります。

職種や所属は違っても、地域で暮らす方々を支えたいという思いは同じです。歯科衛生士も、「食べる」「話す」「笑う」といった日々の暮らしを、お口の健康から支える専門職として、このつながりの中でできることがまだまだあると思っています。

熱意あふれる皆様と今後とも共に学び、考え、それぞれの専門性を持ち寄りながら、島根でその人らしく暮らし続けることを支える力の一つになれればと思います。

10周年を一つの節目として、これからさらに新しい人、新しい世代へとつながりが広がっていくことを心より祈念しています。

一般社団法人　島根県歯科衛生士会
会長　吉田　ちかみ




# しまねリハビリテーションネットワーク10周年に寄せて

このたびは、しまねリハビリテーションネットワーク設立10周年、誠におめでとうございます。

設立以来、リハビリテーションに関わる多くの皆様が連携を深め、県民一人ひとりが住み慣れた地域でその人らしく安心して暮らし続けることができるようにリハビリテーションの分野で地域包括ケアシステム構築に向け、ご尽力されてこられましたことに、心より敬意を表します。

昨今、高齢化が進み、ニーズも複雑化、多様化している中、誰もが自分らしい生活を送るために、医療・介護・福祉をはじめとする多職種の連携が不可欠です。

特に、リハビリテーションと介護支援専門員が相互に連携し、本人の望む暮らしの実現を支えていくことは、大変重要であると考えております。

私たち島根県介護支援専門員協会も貴ネットワークとの連携を一層深め、地域に暮らす皆様の自立支援と生活の質の向上に努めてまいりたいと存じます。

結びに、しまねリハビリテーションネットワークの今後ますますのご発展と、ご参会の皆様のご健勝、ご活躍を心よりお祈り申し上げ、お祝いの言葉といたします。

特定非営利活動法人　島根県介護支援専門員協会
理事長　岡田　昌治

# しまねリハビリテーションネットワーク10周年に寄せて

設立10周年を迎えられましたことに、心よりお祝い申し上げます。

この10年にわたり、島根県におけるリハビリテーションの理念の普及と実践の深化に向け、専門職や関係機関の垣根を越えた連携と協働を推進してこられた皆様のご尽力に、深甚なる敬意を表します。

リハビリテーションとは、単に心身の機能や能力の回復を追求するものではなく、人間としての尊厳を基盤に、一人ひとりが望む暮らしを実現し、社会のなかでその人らしく生きることを支える営みであると考えます。それは、個人の可能性を信じ、その人が有する力や意思を尊重しながら、生活を取り巻く環境や社会のあり方にも目を向ける実践にほかなりません。

このような理念は、私たち社会福祉士が実践の拠り所とするソーシャルワークの価値と深く通底するものです。人々の尊厳と権利を守り、社会参加を促進するとともに、誰もが排除されることなく、地域社会の一員として自分らしく暮らすことのできる社会を実現する。

そのためには、専門職それぞれの知見と実践を結び合わせ、個別の生活課題を社会全体の課題として捉え直していく視座が不可欠です。

人口減少や少子高齢化が進行し、地域社会のあり方そのものが問われる今日、リハビリテーションに求められる役割もまた、新たな広がりを見せているように感じています。専門職間の連携をさらに深化させるとともに、地域で暮らす人々の声に耳を傾け、住民とともに支え合う地域社会を築いていくことが、これからの重要な使命となるでしょう。

設立10周年という節目が、これまで培われてきた知見と実践、そして人と人とのつながりを礎として、新たな時代への歩みを踏み出す契機となることを願っております。貴組織の活動が、今後も島根の地域医療と地域福祉の発展を支える重要な基盤として、さらなる飛躍を遂げられますことを心より祈念申し上げます。

結びに、貴組織のますますのご発展と、関係者の皆様のご健勝、ご活躍をお祈り申し上げ、お祝いの言葉といたします。



一般社団法人　島根県社会福祉士会
会長　田中　涼

# しまねリハビリテーションネットワーク10周年に寄せて

このたび、しまねリハビリテーションネットワークが設立10周年という記念すべき節目を迎えられましたことを、心よりお祝い申し上げます。

貴団体が、これまで地域におけるリハビリテーションの発展や専門職の資質向上、多職種連携の推進に尽力されてきたことに、深甚なる敬意を表するとともに、その歩みを支えてこられた皆様に心から感謝申し上げます。

現在、我が国は人口減少、少子高齢化、多死社会の進展など、医療・介護を取り巻く環境が大きく変容しております。そして、地域の支え手が減少する一方で、支援ニーズは複雑化・多様化しています。その中で、私たち専門職には、これまで以上に相互の役割を理解し、協働しながら、その専門性を発揮し、地域全体で暮らしを支えていく力が求められています。

こうした時代にあって、リハビリテーションの重要性は一層高まっており、単に身体機能の維持・回復にとどまらず、一人ひとりの人生史や大切にしてきた価値観に寄り添い、「その人らしさ」を尊重し、その人が望む暮らしを支える重要な役割を担っています。

また、リハビリテーションを通じて育まれる人と人との関わりは、利用者だけでなく、私たち専門職自身にも学びや気づきをもたらし、共に成長する基盤となるものと考えます。

私たち訪問看護に携わる者も、一人ひとりの個別性を尊重する「木を観る」視点と、地域全体のつながりや地域全体を支える「森を育む」視点を併せ持ち、専門性をより一層高めていく必要があります。

今後とも、貴団体との連携を深め、各専門性を尊重し、学び合い、共に成長しながら、地域の未来を切り拓く力を育んでまいりたいと存じます。そして、これからも職種や組織の垣根を越え、手を携えながら、共に地域の医療と介護を担い、守り、次の世代へとつないでいきましょう。

結びに、貴団体のさらなるご発展と、会員の皆様のますますのご活躍を心より祈念し、お祝いの言葉といたします。



島根県訪問看護ステーション協会
会長　高橋　京子

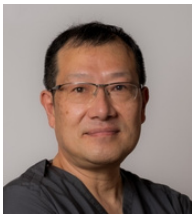
# 次の10年も、得意を持ち寄り、暮らしを支える地域に

しまねリハビリテーションネットワークの皆さま、10周年おめでとうございます。リハビリテーション専門職の皆様が中心となり、多くの職能団体や行政を巻き込み、島根で「その人らしく生きる・活きる」を支える活動をここまで育ててこられたことに、心から敬意を表します。私が島根県歯科医師会の理事としてこのネットワークに参加して、今年で4年目になります。初めて出席したとき、皆さんの若さとエネルギーに圧倒されました。医療介護の職域団体が一堂に会し、国会議員、県議の方々にも活動を理解していただきながら「誰もが住みやすい地域」の実現を政治的な後押しも含めて目指す姿勢は、正直すごいと思いました。懇親会にも毎回最後まで参加させていただき、県内各地の若手リハ職の方々と顔見知りになれたことは私にとって大きな財産です。各地域で施策や事業を進めるうえで、肩書きにとらわれないフラットな関係で相談できる相手が増えました。

高齢者が住み慣れた地域でいきいきと暮らし続けるには、疾患や障害への対応だけでなく、生活に寄り添った支援が欠かせません。

各専門職が他職種への理解を深め、領域を重ね合わせ、時には補い合うことで、はじめてシームレスな支援が可能になります。その土台となる「顔の見える関係」づくりに、このネットワークが果たしてきた役割は本当に大きいと感じています。島根県歯科医師会と島根大学が共同で、県内の後期高齢者約2万2千人を追跡した研究（Abe T,etal.Lancet Healthy Longevity, 2024）があります。口腔のさまざまな状態のうち、要介護認定や死亡にもっとも強く関連していたのは「しっかり噛めていないこと」でした。私たち歯科医師会は、口腔の健康を通じて健康寿命の延伸に貢献したいと考えています。食べることや口のことでお困りの方がおられましたら、ぜひ歯科医師につないでください。

リハ・栄養・口腔の連携が大切だと言われるなか、リハと口腔の間はまだ手つかずの部分が多いように感じます。次の10年は、この部分を一緒に耕していけたら嬉しいです。しまねリハビリテーションネットワークが、これからも島根の地域を元気にする原動力として、ますます発展していかれることを大いに期待しています。



一般社団法人　島根県歯科医師会
理事　前田　憲邦

# しまねリハビリテーションネットワーク10周年に寄せて

しまねリハビリテーションネットワークが設立10周年を迎えられましたことを、心よりお祝い申し上げます。

この10年間、県内のリハビリテーションに携わる多くの皆様が、それぞれの専門性や立場を越えてつながり、地域の中で暮らす人々の生活を支えるために活動を積み重ねてこられたことに、深い敬意を表します。

医療ソーシャルワーカーにとっても、リハビリテーション専門職との連携は欠かすことのできないものです。病気やけがによって生活が大きく変化した方が、再びその人らしい暮らしを取り戻していくためには、身体機能の回復だけでなく、家庭や仕事、学校、地域とのつながりなど、生活全体を見つめる視点が必要です。その実現には、多職種が互いの専門性を理解し、力を合わせることが何より重要だと感じています。

島根県は、人口減少や高齢化、医療・介護人材の不足など、地域を取り巻く課題がますます複雑になっています。

一方で、顔の見える関係を築きやすいという地域ならではの強みもあります。専門職同士がつながり、そのつながりを地域の力へと育てていくことが、これからますます重要になるのではないでしょうか。

設立10周年を新たな節目として、しまねリハビリテーションネットワークが、これまで培ってこられたつながりをさらに広げ、県民一人ひとりの「その人らしく暮らす」を支えるネットワークとして、ますます発展されますことを期待しております。

島根県医療ソーシャルワーカー協会も、皆様とともに地域の課題に向き合い、専門職同士の連携を深めながら、安心して暮らし続けることのできる島根の地域づくりに貢献してまいりたいと思います。

結びに、しまねリハビリテーションネットワークのさらなるご発展と、会員の皆様のご健勝、ご活躍を心よりお祈り申し上げ、10周年のお祝いの言葉といたします。



島根県医療ソーシャルワーカー協会
会長　渋谷　功志